

自 己 評 価 表

愛媛県立松山工業高等学校（全日制課程）

学校番号（24）

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
1 幅広い知識・技術の習得を土台に、特定分野に秀でた、次代の産業界を担うことのできる人を育成します。 2 思いやりの心を大切にし、挨拶や礼儀、高い規範意識を身に付けた人を育成します。 3 自ら学び、自ら考え、主体的に判断して行動するたくましい人を育成します。 4 互いを信頼し、協働的に学ぶ力とともに国際感覚を身に付けた人を育成します。	1 地域の産業界と連携した実践的な活動を通して、充実したキャリア教育を推進します。 2 社会に通用する専門分野の知識・技術の定着を目指し、各種資格・検定試験への挑戦を推奨します。 3 思考力・判断力・表現力を育てる主体的、対話的で深い学びを展開します。 4 豊かな心・健やかな体・協働する力を養う学校行事や部活動等の特別活動を精力的に行います。 5 地域や人とのつながりを広げるボランティア活動や地域貢献活動、姉妹校との交流を実施します。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合 7 割以上	A	「十分に成長している」と「成長している」と感じている教職員を合わせると85%になっている。多くの教職員が生徒の成長を実感しており、目標とする資質・能力は概ね育成されていると評価できる。	「どちらともいえない」という回答が13%あることから、一部の教職員が生徒の成長を十分に把握しきれていない可能性がある。ポリシーと評価の関連を明確化し、教職員間の認識共有を深めることで、生徒の成長の見取りをより正確に行えるようにしたい。
学習指導	教科指導の充実	I C Tを活用した授業を、全教員の90%以上が実施できることを目指す。 A：90%以上 B：75～89% C：60～74% D：50～59% E：49%以下	A	100%の達成状況で、I C Tの活用が定着している。	より実効性ある技能研修や効果的な授業における活用の在り方研究など、活用方法やその効果について質の向上を図りたい。より良い改善を目指した具体的目標の再設定も検討したい。
		「分かる授業」と「考える授業」を展開していくために、生徒用授業アンケートの回答欄「説明が分かりやすい」と「生徒の反応を大切にする」の回答率90%以上を目指す。 A：90%以上 B：75～89% C：60～74% D：50～59% E：49%以下	A	「説明が分かりやすい」は、96.6%が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、「生徒の反応を大切にする」は97.6%が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、生徒が意欲的になれる授業が展開されている。	今年度の高い成果を基盤に、“分かる”を保証しながら、“考える”ための時間と問いを意図的に設計することで、理解と思考が循環する授業の実現に取り組み、さらに「主体的に学べる授業」へ発展させることを目指したい。
	資格取得の充実	各種資格・検定試験の合格者総数5000人以上を目指す。 A：5000人以上 B：4999～4500人 C：4499～4000人 D：3999～3500人 E：3499人以下	C	3月上旬での合格者総数が4400人であり、例年より減少している傾向である。全国的には高水準であると考えられ、最終的には目標の合格者総数5000人を超えられるよう、さらに啓発に努める。	資格取得は、進路選択のための指標にもなるので、目標を持って計画的に考えさせる。 2年生の資格取得状況が、取得総数やジュニアマイスター顕彰取得にも大きく関わってくるため、早い段階での資格取得を奨励する。
生徒指導	基本的生活指導の充実	自ら進んで正しい挨拶のできる生徒を育成していく。それに関する生徒自己評価の質問事項の肯定的な回答率100%を目指す。 A：100% B：90～99% C：80～89% D：70～79% E：69%以下	B	約98%の生徒が挨拶や礼儀、他人を思いやる態度が身に付いていると回答している。登校時に正門で自転車を降り一礼する「校門一礼」も伝統的に定着しており、元気な挨拶をする生徒が多い。TP0に応じた言葉選びなどの礼節が課題である。	挨拶は、基本的生活習慣や対人コミュニケーションにおいて重要なスキルであることを生徒たちが理解し、自ら進んで挨拶ができるように、学校生活のあらゆる場面で指導していきたい。挨拶の目的、仕方、場所での使い分けなど自分たちの挨拶に自信や誇りをもって、積極的にはきはきとした挨拶ができるようにしたい。
	交通安全指導の充実	登下校指導や交通安全教育の充実により、交通事故発生数0件を目指す。 A：0～14件 B：15～29件 C：30～39件 D：40～49件 E：50件以上	B	交通事故発生数は、1学期（11件）、2学期（9件）の20件で昨年度（24件）より少なくなっているが、自動車との事故が半数をしめ、重大事故につながりかねない。	朝の登校指導、生活指導、校外自転車指導、ヘルメット着装指導、HR活動、事故後の指導等のあらゆる教育活動において、自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底を心掛けさせたい。下校時における校門一礼が定着してきた。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。 A：100% B：95～99% C：90～94% D：85～89% E：84%以下	A	求人数は昨年度より増加し約2,307人となり、コロナ禍以前よりも好調な傾向が続いている。1次合格率も95.2%と高い合格率を維持しており、継続的に就職率100%を達成できている。	近年、コロナ禍などの影響が欠席が多い生徒が増加しており、売り手市場で全体の合格率は高いが、不採用の要因になっているため、就職後の生活習慣確立のためにも出席率の向上を図る必要がある。
	進学指導の充実	生徒が自主的に学習できる環境を整えることにより、国公立大学合格者15名以上を目指す。 A：15人以上 B：10～14人 C：6～9人 D：1～5人 E：0人	B	進学者数は昨年度の108人から66人へと減少したが。国公立大学希望者は昨年同様13名で、合格者も昨年同様11名と進学補習担当教員の献身的な指導の結果成果がでている。そのうち愛媛大学は希望者が10名、合格者が8名となっている。	学力が高く進学を希望している生徒に、高度な専門性を有する大学への進学は、自身にとって有意義な進路選択となることを丁寧に説明し、国公立大学への進学を促していく。
特別活動	特別活動の充実	全国大会上位入賞10部門以上を目指す。 A：10部門以上 B：8～9部門 C：6～7部門 D：3～5部門 E：2部門以下	A	生産部のメカトロ部・工業化学部が全国大会で優勝、機械技術部・土木技術部でも上位入賞を果たし素晴らしい成果を上げることができた。運動部の自転車競技部が唯一入賞することができた。	最近、運動部の全国大会での入賞が大変難しい現状になっている。各種目での競技力向上に対応しきれていないのが課題である。 生産部の受賞状況は、次年度に向けて対策の成果が十分出ていることから継続強化を図っていきたい。
工業指導	社会貢献の充実	「松工ものづくり社会貢献プロジェクト」として、ものづくりを通した社会貢献を各学科一つ以上行う。	A	工業全8学科とも「課題研究」を通して、1テーマ以上の社会貢献を目指した活動を実施している。また、ポスターセッションを実施するために、地域の課題について学習したことで、生徒達の社会貢献に対する意識が高まっている。	生徒の主体性を育むために、次年度も継続して取り組み、内容を充実させた研究発表会を実施させ、ホームページ等を活用して情報発信を行う。 また、各学科の特色が生かせられるよう、各学科と地域との連携強化をさらに推進する。
人権・同和教育	人権教育の充実	松工人権宣言の100%の周知を目指す。 A：100% B：90～99% C：70～89% D：50～69% E：49%以下	A	各ホームルーム教室に「松工人権宣言」を掲示し、人権・同和教育ホームルーム活動やショートホームルームなどを通じて、周知の徹底を図った。12月に実施したアンケートで「知らない」と回答した生徒(8人)とアンケート当日欠席した生徒(37人)には、学習会を開いて周知と理解を図り、目標は達成できている。	来年度も100%の周知を目指していき、生徒が楽しく有意義な学校生活を送れるように、人権・同和教育の充実を図っていきたい。
環境整備	奉仕活動の充実	各クラス・部で、年1回以上の奉仕活動を行う。	A	奉仕活動はクラスで8割強、各部団体においては9割弱が実施しており目標を達成したと考えている。 グランドの水はけの問題は、改善に向けで業者に依頼しており進行中である。	平常時の清掃状況について、成果としてもっと残せる部分があると考ええる。生徒一人一人に5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）活動を徹底させることを目指す。
業務改善	職場環境の整備	教職員のメンタルヘルス対策として、定期的に健康相談等の面談を行い、教職員の健康障害0名を目指す。	A	定期・随時の健康相談等の面談を行うとともに、専門機関とも連携し先生方の心に寄り添ったメンタルヘルスの維持向上に努めた。その結果、体調を崩す教職員はいなかった。	定期的な健康相談等の面談、随時面談を行うなどラインケアの強化と専門機関との連携を図ることにより、先生方のメンタルヘルスの維持向上に努め、すべての職員にとって居心地の良い職場環境を目指す。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。